1月の学習会の案内

平成２８年１月１８日

平成２８年、新年あけましておめでとうございます。といいつつ、もうすでに正月気分は遠くへ抜け去ってしまっているのは、私だけではないかと思います。

いよいよ、西日本集会の開催される年になりました。この年明けからは会で提案する実践がどんどん始まってきます。一つ一つの実践を進めていきながら、本会としての考察を行いながら本番へ向けて実践提案を固めていけるようにしたいですね。

１月の会も文書でのご案内がぎりぎりになってしまいましたが、また先生方のお力添えが必要です。今週末の会となりますが、よろしくお願いいたします。

日　時　　平成２８年１月３０日（土）９：３０～１２：００
※日曜日開催です。ご注意ください。
場　所　　岡山大学　教師教育開発センター東山ブランチ　１階　大会議室
　　TEL(086)272－0511　　FAX(086)271-3455
連絡先　　小出　真規（こいで　まさき）TEL　090-5704-7339
　　m-koide@okayama-u.ac.jp（学校パソコン）
　　m.koide.freewill@icloud.com（携帯メール）

内　容　　西日本集会へ向けての教材研究および授業構想（グループごとに内容が異なります）
　　実践内容の検討
＜お知らせ＞
※　駐車場について
東山ブランチの駐車場をお使いください。

岡山大学教育学部附属小学校
実践研究発表会のご案内

日　時　　平成２８年２月１３日（土）８：３０（受付）～１２：３０
場　所　　岡山大学教育学部附属小学校
　　TEL(086)272－0511　　FAX(086)271-3455
公　開　　９：００～９：４５　（１限）
授　業　　「対話的な学びのある授業づくり」
　　学習材「ウナギのなぞを追って」（光村図書４年下）
　　４年は組教室　授業者　小出　真規
国語科　　１１：００～１２：３０
協議会　　４年は組教室
　　司　　会　小野桂先生　（倉敷市立万寿小学校）
　　指導助言　赤木雅宣先生（ノートルダム清心女子大学）

駐車場　　附属小学校の正門より運動場へお願いします
　　お越しくださいませ。お待ちしております。

12月の学習会の報告

小川先生より

12 月になって西日本集会へ向けての実践がはじまってきた。おもしろみつけ、丸ごと読みで子どもたちの活動が活性化してきている。

新見北小学校での校内研究の授業について。「すがたをかえる大豆」についてのおもしろみつけの授業。教科書の位置づけとしては、総合的な学習が入ってきたときに、調べ学習をして書くという学習材。説明文としての力は弱い。なぜ変えるのか、どのように変えるのかという説明が弱い。気付き反応がしにくい。授業の前には、くらべ反応でいくとうまくいくのではないかという話をしていたが、実際の授業では、子どもと教師の間にずれが見られた。教材とその教材に対する反応を授業をするにあたっては整理しておく必要がある。

協議会では、まとめと振り返りの話があった。まとめるということは、それまでの学びをメタ認知すること。こんな反応があったからこんなことがわかった。というメタ認知。最後に価値ある反応、読み方は何かな、それによって何が生まれたのかな、ということを言語化したものがまとめ。そうすると、まとめを記述する前に「今日の勉強をふりかえってみよう」というのもある。また、まとめをした後ということもありうる。言語化によって活性化する。振り返りは学びをメタ認知することが大事。そこがポイントというのは大正解。メタ認知によって財産をストックしていくことが大切。

この勉強会でやっている振り返りは、話合い活動の終わりの残り１０分の前に振り返りを入れている。子どもたちの話合いでずっときて、価値有る反応も出てきて、そうでないものも出てきて雑居状態があって、学習活動について概観して、価値有るものとないものとのさびわけをしている。子どもがビッグハートで価値ある反応に気付いていって、残り１０分で深めていくというのがこの学習会での振り返り。ただ、うしろに振り返りが入ってきてもいいとは思う。残り１０分の前に振り返りを行うことが効果的であるという認識ではある。残り１０分は仕切り直しともいえる。価値有る反応を認識して読み直してみる。振り返りで気をつけることは２つある。いい授業だったなと思うときは、すうっといったなという授業より、でこぼこの授業の方が価値あることへの気付きがある授業。まとめの前に価値ある読み、反応を指導的評価をきちっといれておさえておかないと、何をやったかがわからない授業になる。学びをメタ認知できるような授業を残り１０分までに行えてないと、TCTC の授業では、子どもの主体性がない。それでは振り返りと言われても、子供は振り返れない。一人学びが大切。そこを自覚的に行わせていないと、振り返れない。一人学びを充実させようと思ったら、めあてが大切。「どんな反応で読めるかな」というのが意識１。一人学びのときに意識２にうつる。そうやって意識が高まってから話合い活動に入ると、友達と自分の読みをくらべることができる。意識０もありそう。前時の読み、反応はどうだったかなというところ。

おもしろみつけ、丸ごと読みは振り返りにとても作用する。学力をつけるのに、有効。自信をもって進めていきたい。

○田岡先生の実践発表

発表資料を参照ください。

○質疑応答

小川先生

文学では、すごい、変化している、といったすごい反応、変化反応。対象そのものが反応になっていく。

説明文。対象は何ですか。描き方、作品世界、歴史的世界。内容面の対象。それはどんな読み方を使っ

たの。どんな反応をしたの。説明文で戸惑われている先生は文学とごっちゃになっている。混乱状態が見られている。対象を読み深めるが、どう反応がからんでいるのか。

田岡先生

反応を３種類にしてとらえているということがわかりやすい。色分けをして３つの視点に対してということでわかりやすかったのではないか。

小川先生

２つの視点をつないで読みをつくるというがすごい。

残り１０分のところ。残り１０分の発問。批判的に読む「納得できますか」ということを少し変えて、「アニメの祖といっていいのかな」共感的に批判する。ということになっている。読み方と読みを深める発問の前に子どもの動きはあるのか。

田岡先生

２次３時ではあったが、本時ではまだそこまでではなかった。

小川先生

２次１，２時ではそこまでダイナミックにつないでいくことはできていないが、３時でということ。

田岡先生

２時目が授業としの手ごたえがあった。

小川先生

３時の発問はきっかけというところまでいっている。

身に付けながら、活用型の学力になっていっている。初めて説明文の指導をしたということではなく、ストックを使いながらこの単元の学習を進めていったといえる。

田岡先生の発表についてグループで協議

野崎先生よりグループで出た感想や質問

- ３つの視点を１次からとらえるという工夫があった。説明文として反応する対象がはっきりしていた。子どもたちがすっきりとらえられていたのではないか。
- ３次は内容を活用するということ。書きぶりを活用。従来の模倣では学力にはならない。仕事とつくりを勉強して思考力を鍛えている。掃除道具で書かせても良いというように。活用して書いている。
- ２次４時は必要か。なくてもよいかもしれないが、客観視する時間が必要なのではないか。単元計画では、４時がきれているように見えるが、この時間は必要。
- ２次の４時は価値ある反応を位置づけていった結果、ここでは何を何反応を価値付けていく時間なのか。という話をした。

田岡先生

- ４時は客観視する時間。筆者反応と書き方の工夫をとらえる。筆者反応が深まった。ここで反応が深まったとすれば、筆者反応。物の見方考え方で３次にいくなら、そういうことを考える４時、価値観や見方、考え方を考える時間にしてもよかったのではないか。

八代先生よりグループで出た感想や質問　（→印は田岡先生のお答え）

- 文学と説明文での子どもの反応のちがいは。
  →視点を示して色分けをする。どんな視点を示すか教材研究で読みとっておかないといけない。１次２時が大切。子どもの直観から出発させたい。そこから視点を考えた。
- １次２時と２次２時のめあてをどうつないだか。

→４つの絵を見て、３つの視点があったことが高畑さんの文章でもあるのかなということで入っていった。視点をもって読むという読みの構えをもって読むということも育てていかないといけない。そうやって読めるようにしていくということも高学年では考えていかないといけない。

・ どうやって直観をもたせたのか。
→授業を重ねていくことで広がりが出ていく
・ ３つの視点と反応との二重構造
→流れの中で自然にこの形になるのでは。「やまなし」５月と１２月の対比。くらべて読もうということで、気付き反応をつかっていく。海の命「太一の生き方を読もう」、年齢があがったら、作品を読むさいに視点に焦点をあてためあてになっていくのではないか。６年生の後半から発達にレベルアップしたものが出てきた。中学生に近づいたもの。筆者反応に自信をもって続けていく子どもも見られた。
・ 普段の読書でも使っているが、自覚せず使っているので、そこを教師が位置づけて見える化していくことが大切

名越先生よりグループで出た感想や質問

・ ２次の４時、流れの中で関係付けをしていくこともできるのではないか。
・ ２次１時、歴史的価値は筆者反応だと感じた。
・ つなぎ反応のレベル上げ、つなぎ反応のとらえ。広い意味であるのか。言葉と言葉をつなぐ。内容と内容。霧がかかったような感じをもっている
・ つなぎ反応と意味づけ反応は重なる。
・ 残り１０分の発問。価値有る内容への気付きにつながるものになっている。思考の扉がひらく、探究的対話になるものにしていいかないといけない。
・ １次１時で全体。２時で視点を得る。３次は視点でルソーのメッセージということについては、どこから出てきたのか。

平井先生よりグループで出た感想や質問

・ ３つの視点（対象）は並列的な価値ではなくて歴史的価値のところへ向かうように考えているのか。３つをそれぞれ、時間ごとに大切に扱ったのか。

田岡先生からのお答え

・ ルソーからのメッセージ　思想＝画家からのメッセージという１次で取り上げていたので、それを２次からは、思想はないなということで、他の３つで学習。３次で１次を思い出す形でメッセージという言葉を使った。
・ つなぎ反応。幅が広い。子どもがするのは、絵と言葉、言葉と言葉をつなぎ反応と伝えている。どこかとつながっているのかなと考えることがつなぎ反応。それが子どものレベル。もうひとつは、読み深めの時にあらわれているところがつなぎ反応。
・ ２次１時は気付き反応か筆者反応か。子どもの意識によって変わるのではないか。
・ 重み付けという発想はない。

〇グループの話合い

今回は全体で報告はしていませんので記録はありません。

小川先生より

やはり学び合いの最後の１５分。そこで拡散的会話、累積的対話をしながら、指導的評価が入っている。

それをどう探究的な対話へもっていくのか。

今日の田岡先生の実践でいくと３つの対象。内容面を探究していくわけだから、３つのどれを探究していくのかということになる。教師は子どもの話合いを聞きながら、探究する対象が決まってくる。そうすると１次の直観が大切になってくる。おもしろいのは、残り１５分で３つをミックスしてきた。それで深まっていったのは、直観とはちがうところで読み深めをしていっているのではないか。子ども相互の話合いで、読み方、読みが深まった。そこで発問。すると３つの視点を関係づけながら新しい読みを生み出していったというストーリー。最後は読み方を発揮しながら、読みを作るという藤森先生の話を先月したが、そういうことになっていたのだと。「話し言葉の会」では、TC を書き上げる。子どもの C を分析する。影響つながりを分析。そういうことをしていると探究が見えてくるのでは。

筆者の述べ方について。文学では没頭した読み。読みを作り、共感的に理解。なりきりと共感からは述べ方が見えてこない。様子や気持ちを読んでいるときには、述べ方に目は向けているが、気付いていない。対象化してみていかないといけない。３年生の社会科、スーパーの探検では、子どもの疑問をとりあげておく。２次の１～３時でのそうした疑問を３次で解決という学習にする。それぞれの時間で丸ごと解決するのではなく積み残しをわざと作っておいて引っ張り出して位置づけたのが、２次の４時。３次になるのかもしれない。述べ方の工夫は国語でしかできない。重要にしていかないといけないが、授業の単元構想としては、いつもそうとはならない。

西日本集会について

生活総合単元学習の発想が必要。田岡先生の実践はその形になっている。読むということはどういうことかなというところから入って、鳥獣戯画を学習して、３次。美術館にいったときにも使える力にもつながっていく。生活につながる力になっていくことが見てとれる形の実践になっている。

文責　小出

間違い等ありましたら，お知らせください。